

市長記者会見記録

日時：2020年5月12日（火）14時00分～14時35分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について（こども未来局）
市政一般

【話題提供】“今だからこそ”子どもたちに活力を届けるプロジェクト

『メッセージ for Kids ～川崎の子どもたちへ～』を実施します（総務企画局）

<内容>

<令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について>

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。

本日の議題は、「令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について」となっております。

初めに、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 市民の皆様には、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、自粛行動等に御協力をいただいていることに心から感謝を申し上げたいと存じます。

社会経済活動を早期に回復させるためにも、もうしばらくの辛抱と、地域が一体となって取り組むことが何より重要ですので、引き続きの御理解と御協力をよろしくお願いいたしますと存じます。

本日は、令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数につきまして報告をさせていただきます。それでは、お手元の資料1ページを御覧ください。

令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数でございますが、まず、子育てと社会参加の両立を目指す若い世代の増加に伴いまして、保育所等利用申請者数は、前年度比で1,272人増となる3万4,743人となりました。また、受入枠の拡充を積極的に進めてきたことに伴いまして、利用児童数も前年度比1,597人増の3万2,296人となりました。これは、どちらも過去最大の数値となっております。一方、希望する保育所等に保留となった方は、前年度比で325人減の2,447人となりました。

各区役所では、入所保留となった方の保育ニーズに応じて、川崎認定保育園やおなかま保育室、年度限定型保育事業など多様な保育施策を御案内し、きめ細やかなアフ

ターフォローを行った結果、厚生労働省の調査要領に基づく令和2年4月1日現在の待機児童数は12人となりました。こちらの12人につきましては、幸区が10人、川崎区と中原区でそれぞれ1人で、年齢別の内訳はゼロ歳児6人、1歳児5人、2歳児1人となっております。

2ページ目にまいりまして、平成24年以降の利用申請者数等の推移でございますが、下段の表を御覧ください。就学前児童数につきましては、前年度比で818人の減となりました。しかしながら、申請率につきましては、平成27年度以降、対前年度比2%を超える伸びを示しておりまして、今回、過去最大の43.7%となっております。

3ページにまいりまして、待機児童対策における課題・取組でございます。

まず、本市の待機児童対策を取り巻く課題として、主に3つの内容を挙げております。1つ目は、利用申請者数の大幅な増加でございます。全市の就学前児童数につきましては減少いたしましたけれども、大規模集合住宅の開発に伴う転入増等により、一部の地域では就学前児童数が増加していることに加え、保育所の利用を希望する方の割合も上昇しています。

2つ目として、保育所整備をめぐる厳しい環境でございます。保育需要が高く、特に保育所整備が必要な主要駅周辺の地域ほど、整備に適した用地確保が困難となっております。また、都市部を中心とした保育所の増設が進む中、保育士確保の競争が激化しております。

3つ目として、保育従事者の増加に伴う保育の質の確保でございます。保育施設の増加に伴い、保育に従事する方々の数も年々増えている中、待機児童対策は量の拡充と質の確保とを両輪で進めていく必要があります。

これらの課題を踏まえて、取組の3本柱である「多様な手法を用いた保育受入枠の確保」「区役所におけるきめ細やかな相談・支援」「保育の質の維持・向上」を今後も強化してまいります。

まず、①の「多様な手法を用いた保育受入枠の確保」でございますが、保育ニーズの高い主要駅周辺を中心に集中的に受入枠の確保を進めてまいります。また、認可保育所と並び、市の保育ニーズを支える重要な受皿となっております川崎認定保育園を積極的に活用するほか、幼稚園の一時預かり事業の拡大などを推進してまいります。年度限定型保育事業については平成29年度から実施しておりまして、緊急的な対策として有効であることから、次年度の実施についても検討してまいります。

国が待機児童対策として整備を進めている企業主導型保育事業につきましても積極

的に情報収集に努めるなど、有効に活用してまいります。また、横浜市との連携協定の取組につきましては、既存の保育資源である川崎認定保育園と横浜保育室との相互利用を引き続き実施するなど、両市の連携を進めてまいります。

次に、②の「区役所におけるきめ細やかな相談・支援」でございます。各区役所では、これまでも子どもの預け先を探す保護者の方に対して、保育ニーズに応じた施設・サービスとのマッチングを丁寧に行ってきたところでございますけれども、引き続き、申請前からの説明会の実施や、入所保留通知後の平日夜間や土曜日の相談窓口の開設によるアフターフォローなど、市民視点に立った取組を継続してまいります。

次に、③「保育の質の維持・向上」であります。認可、認可外を含め、保育施設は年々増加し、保育に従事する職員の数も増えていることから、市内の公立保育所を拠点として、公民が連携した包括的な人材育成の取組を進めてまいります。

また、深刻な保育士不足に対応するため、保育士養成施設に通う学生や潜在保育士を対象とした就職相談会をはじめ、市内保育所とのマッチングなど、関係機関と連携して保育士確保の取組を推進するとともに、国の様々な補助事業を活用しながら、保育士確保の取組を充実・強化させてまいります。また、保育士等の処遇改善の取組を継続するとともに、保育士宿舍借り上げ支援事業などを通じて保育士の定着につなげてまいります。

待機児童の解消に向けましては、こうした取組をしっかりと継続していくことが必要であり、特に利用者に寄り添い、それぞれの利用者のニーズに合った丁寧な支援を行うことが重要となっています。そして、仕事をしながら日々子育てに奮闘されている保護者の方が安心して子どもを預けられる環境を整備して、「子育てしやすいまちかわさき」の実現に向けて、引き続き取組を進めてまいります。

以上で、令和2年4月1日現在の保育所等利用待機児童数についての説明を終わらせていただきます。

【司会】 それでは、本議題についての質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件の質疑が終了後、話題提供についての質疑と併せて改めてお受けしたいと思います。

進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 区別に見ますと、数年前までは中原区は懸案だったと思うんですけど、数字の上ではちょっと落ち着いているのかなという感じがします。代わりに、幸区が前年度と引き続いて多くなっている。この辺の区ごとの受け止め、市長はどんな感想をお持ちでしょうか。

【市長】 昨年度は集中的に中原区の整備を進めてまいりましたがけれども、幸区のところは大きな集合住宅ができていたと同時に、既存の集合住宅にお住まいになっている方が徐々にまた、お子さんが生まれたりなどして申請者が増えていると。それにもかかわらず、やはりその周辺に保育所を整備できる適地がなかなか見つからないというのがございまして、そういった難しさが、この1年、2年出てきているなど感じているところです。

【幹事社】 なかなかゼロにならないんですけれども、市長はこの政策をずっと力を入れてきたと思うんですけど、今後どうやっていくかって決意のほどを改めてお聞かせください。

【市長】 先ほども御説明申し上げましたけれども、就学前児童数というのは若干減少傾向にあるけれども申請率自体は上がっているということですので、これからもこの傾向って変わることはないと思っています。ゆえに、さらに受入枠の確保をしっかり重点的にやっていかなくちゃいけないというのは、これまでと変わりません。

それと、課題になっている保育の質を担保しながら、それから多様な保育の受入枠をつくっていくことが大事だと思っていますので、単純に認可ということだけじゃなくて、認可外のところも、川崎認定というのも川崎の大きな特徴の一つですし、この一、二年で企業主導型というのも若干数が増えてきているということもありますので、そういったものをうまく連携させながらやっていきたいなと思っています。

【幹事社】 子どもの数自体は、区ごとのばらつきはあるみたいなんですけれども、やや減少傾向になっていると。全国的なものだと思うんですけども、その中で申請率自体はずっと上がり続けていくというのは、どういう分析ですかね。

【市長】 やはり特にと言えば、子育て世代の女性の就業率が、この数年で非常に上がっているということが、鶏と卵みたいな話かもしれませんが、預け入れ先があるということは、しっかりと働きにも出られるし、早く仕事に復帰もできるしということも関係しているのではないかと思いますし、そういう意味では、潜在的にまだまだニーズはあるとは思っていますので、そこは繰り返しになりますけれども、引き続き環境整備はしていかなくちゃいけないなと思っています。

【幹事社】 今後も申請率は上がり続けると、前提に……。

【市長】 そうですね。ですから、整備するところと、逆に、同じ川崎市内であっても申請率が伸びていない地域と、同じ区にあってもかなり偏りが出てきていることは確かですので、そのあたりを細かく見ていかなくちゃいけないなとは思っています。

【幹事社】 幹事社です。すみません、もう一度改めて、3年連続待機児童がゼロに

ならなかったというところの受け止めを教えてください。

【市長】 やはり集合住宅を中心に人口が伸びているエリアというのがあって、そこに対する整備がなかなか追いつかないということもございます。それと、本当にお一人おひとりを最後までフォローしていっていますので、どうしても条件が合わない、例えば、医療的なケアが必要なお子様というのは、どうしてもそこに受け入れることができないという、そういった難しいケースが最後まで残ってしまうというのがあります。

ですから、こういったところは個別にしっかりと対応させていただきますが、どうしても、なかなか最後の最後のところが難しいというのは残っているのが現状です。これ、課題として大きく受け止めています。

【幹事社】 待機児童12人の方の御両親に対してはどういったフォローをしているのかというのは、市としてはどういうふうに……。

【市長】 待機児童になったから、はい、そこで終わりという話じゃなくて、ずっと通年でもってフォローしておりますので、そういった意味では、順次準備ができたところから、あるいは空きができたところに御案内していくということをやっていると思いますので、一つの、4月1日時点での、どっかで切らなくちゃいけないということで、こういうカウントをしておりますが、引き続き丁寧なフォローをしていきたいとは思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。

【幹事社】 幹事社です。確かに申請者数がこれだけ増えて、申請率も高いですけども、多くの自治体では、募集枠に対する倍率というものはどんどん下がってきている。川崎市もそうだと思うんです。長期的に見ると、その辺というのは供給過剰ということ、当然起こり得るんですが、その辺、もしも市長御自身が保育施設に対する長期的なビジョンをお持ちであれば、お聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 先ほども申し上げたとおり、同じ区内であっても足りないところと足りているところが出てくると思いますので、少し中長期の視点で見ると、今の段階で何か統廃合していくというのは、かなり時期尚早な感じがしますが、そういったことも、当然、人口減少していくというのは、フレームで2030年以降は見えている話ですから、その前に、もう就学前児童数は少し減っていていることを考えれば、今後の中長期の整備に関しては、より注意深く見守っていかなくちゃいけないということは確かだと思っています。

【幹事社】 では、各社、どうぞ。

【記者】 (3)①の2段目、「経験年数7年目以上の職員への保障額を4万円に引き上げるなど」とありますが、これは幾らから4万円という……。

【市長】 事務方からでもよろしいでしょうか。

【記者】 はい。それと、これが狙うところというか、いわゆる潜在保育士の発掘なりにつながる、そのあたりも教えてください。

【市長】 狙いは、やはりしっかりと定着していただくということと、ベテランの人たちにしっかりと残っていただいて、その経験というものが生かされるものにしていきたいということが狙いでございます。

額については、すみません。

【こども未来局】 保育第1課です。先ほどの4万円の件でございますが、昨年度まで、この金額、単価が2万円だったものを今年度から4万円に単価を上げております。そのような拡充でございます。

以上です。

【司会】 そのほか、御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本議題については終了いたします。関係職員の交代をお願いいたします。

《市政一般》

《“今だからこそ”子どもたちに活力を届けるプロジェクト

『メッセージ for Kids ～川崎の子どもたちへ～』を実施します》

【司会】 次に、話題提供といたしまして、「“今だからこそ”子どもたちに活力を届けるプロジェクト『メッセージ for Kids ～川崎の子どもたちへ～』を実施します」について、福田市長から御説明いたします。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

【市長】 新型コロナウイルスの影響によりまして、市立学校の臨時休業が5月末まで延長となりまして、子どもたちにとっては、学校に行けない、友達に会うことができないといったつらい状況が続いております。そんな子どもたちのために、自宅等で過ごす時間を、自分の夢や可能性を育む機会としてポジティブに捉えてもらうために、様々な分野で活躍する著名人やプロフェッショナルな方々の応援メッセージを動画で届けるプロジェクトを実施いたします。

実施は本日からございまして、第1弾は川崎フロンターレの中村憲剛選手が出演をいたします。以降、川崎ブレイブサンダースの篠山選手ですとか、あるいは本市ゆかりのアーティスト、EXILEのMATSUさんですとか、三代目J SOUL BROTHERSの今市さんなど、このプロジェクトの趣旨に賛同いただき、御協力いただける方の動

画が集まり次第、順次、「Y o u T u b e 川崎市チャンネル」に掲載をしていく予定です。

動画の内容は、1人の出演者につき3分から5分でございます。出演者の経験や思い、そして川崎の子どもたちへのメッセージを語っていただきます。なお、新型コロナウイルス感染症リスク低減の観点から、動画は出演者本人または関係者に撮影をお願いしております。

PRについては、本市ホームページやツイッターなどで御紹介するほか、教育委員会からの保護者メール等で周知をしております。

それでは、作成した映像を御覧いただきたいと存じますので、こちらのモニターで御覧いただければと思います。3分程度になります。

(映像上映)

【市長】 以上になります。

中村選手が言うように、この時間を無駄じゃなかったと思ってもらえるように、子どもたちに勇気だとか、あるいは、意味ある、次につなげていくような、そういうメッセージをいろんな方から頂ければなと思っています。

この動画ですけれども、学校が臨時休業中である期間など、当面の間、継続していくことといたしまして、子どもたちに寄り添った支援を行ってまいりたいと思っています。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました件と市政一般に関する質疑を併せてお受けいたします。

進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【幹事社】 これは、順次上げていくのであって、だんだん、だんだん積み重なっていくわけですね、人が。中村選手の次に誰々というふうに、それぞれホームページから見られるようにするというので、だんだん、だんだん増えてくるということですね。

【市長】 そういうことです。

【幹事社】 今の話と全く重なっちゃいますけど、これによって子どもたちはどういうことを受け取ってもらいたいという市長の話をもう一度。

【市長】 やっぱこれだけ学校に行っていない、友達とも会っていないとなってくると、自分がどこに、目標を見失ったりとかということもあると思うんですね。で、元気がなくなってきていると思います。ですから、少しお兄さんだとかお姉さんだとか、

あるいは憧れの人たちが、自分たちの子どもの時代、つらいことでどう乗り越えてきたのかというのが少し参考になって、元気を与えてくれれば大変ありがたいなと思っています。

学習環境が、オンライン学習がなかなかできない環境ではありますけれども、学習とはちょっと違った観点で、中村選手の言葉を借りるようですけど、前向きになるとか、あるいは、意味ある時間に意識を変えていくというふうな、そういったもののきっかけになってくれればありがたいなと思っています。

【幹事社】 幹事社です。これ、どのぐらいの頻度で上げていくんですか。

【市長】 まだいろんな方に出演交渉しておりまして、それがいつ動画が撮れてくるかというのは順次入ってくるという状況ですので、休業期間、5月31日までとなっていますけど、当面の間は続けたいと思っております、上がり次第ということで、映像が来次第、どんどんアップするという形にしたいと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。

【幹事社】 具体的に何人ぐらい、芸能人の方とかは、いろいろスケジュール調整が大変でしょうけど、何人ぐらいリストアップされているんですか。

【市長】 リストアップは結構しているんですけども、特に川崎のスポーツパートナーの皆さんを中心にやっていただいております。NECのレッドロケッツだとか富士通フロンティアーズだとかという、そういうスポーツ選手もそうですし、SHISHAMOさんにもお願いしているとか、音楽、文化、芸術の方たちにもお願いしています。ですから、スポーツだけということではないです。

【幹事社】 なるほど。ありがとうございます。

【幹事社】 では、市政一般も含めて、各社、自由にどうぞ。

《日進町簡易宿泊所火災関連について》

【記者】 共同通信の八木です。17日で日進町の簡易宿泊所の火災から丸5年ということになりますが、その後の市の対策だとか、地域の活性化に向けた取組とかも行われていると思いますが、現在の地域の現状も含めて所感をお聞かせください。

【市長】 継続的に、簡易宿泊所の皆さんとのコミュニケーションは取らせていただいて、改善すべきところというのは定期的にやらせていただいていることと同時に、やはり地域全体の活性化に対しても、簡宿のオーナーだけじゃなくて、その取り巻く環境の人たち、やっぱりみんな考えてくださっていて、まちづくり局中心に、あそこのにぎわいづくりだとか、どういうにぎわいをつくっていくとかというのを、今、次々とやっているところだと思っておりますので、そこにもう少し、安全はもちろん確保

するということは大前提でありますけれども、そこからまた、どういうまちをつくっていくかというのが課題にもなっていると思いますので、そこにも併せて力を入れていきたいと思っております。

【記者】 先ほどの動画なんですけど、これは出演料とかは発生しているんですか。

【市長】 いえ、全部ボランティアでやっていただいております。

【記者】 なるほど。これは、市が依頼をしてということですか。

【市長】 そうです。

【記者】 出演依頼をして。

【市長】 はい。

【記者】 何か、動画で発信したいんだけどというようなことを先方から言われたわけじゃなくて、市からお願いしているということなんですね。

【市長】 こちらからお願いしたということです。

【記者】 分かりました。この出演予定者というのは、これはもう既に、もうめどが立っている方という理解で……。

【市長】 そうです。

【記者】 現時点で7人の方、7本の動画を準備している。それに加えて、SHISHAMOさんとか、ほかの分野の方にも出演交渉をしている、そんな理解で……。

【市長】 今、予定者を書いてあるところというのは、もう既に内諾を得て、やるよと言ってくださっている方です。それ以外に交渉しているということです。

【記者】 なるほど。臨時休業、当面、5月末までということで、今の時点で、この7人の方と、ほかにも出演交渉されておられると、本当に二、三日に1本ぐらいのペースでアップしていかないと消化し切れないんじゃないかという気もしますし、場合によっては臨時休業の前倒しということもあるのかどうなのか、そこも分かりませんが、そういったときにはどういうことになるんですか。

【市長】 タイミングというのはいろいろあると思いますが、メインは、この休業期間中に対する、見てもらえればなどは思っていますけど、ただ、これ、時期がずれたからといって、皆さんが、川崎の子どもたち、頑張れというエールの気持ちって変わらないと思いますので、そこはあまり、はい、これで終わりみたいな話にはならないと思いますし、というふうに考えています。

《[新型コロナウイルス関連について](#)》

【記者】 なるほど。分かりました。

すみません、ちょっと別件で、たしか川崎市が一番初めにコロナの患者の方の感染

を発表したのが、ちょうど2か月前だったと思います。発生から2か月という状況、現状と、最近では、特に連休期間中も、検査を回しても数人の感染確認ということで、陽性率自体はかなり下がっている状況なんじゃないかとも思います。冒頭、市長も、もうしばらく頑張ってもらいたいということもおっしゃっていただきましたけれども、陽性率が下がっている現状と、改めて、今、市民にどういうことをお願いするのかということをお聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 そうですね。振り返ってみると、本当に、2か月前、最初に発生した頃というのは、うち、東京の隣接都市でありながら、ここまで1人目が出なかったというのが随分遅かったんですけど、それから一気に、陽性率で言うと19%ぐらいまでぼーんと上がってというので、段階的に下がってきて、5月に入ってから是非常に少なくなってきたというの、まさに自粛していただいた、行動変容していただいた結果が出てきているとあって、まず、そこに対する皆さんの、つらい中やっていただいたことに感謝を申し上げたいと思っています。

それと、現状はいい数字は出てきているなどは思いますけれども、やはり海外の各都市の事例、大きな都市のを見てみると、短期間で第2波というか、もう一回ぶり返しているというのが見えてきているので、そういった意味では、まだ気が抜けないということなんだろうと思っています。ですから、いつまで、もうしばらくなのかというのは専門家の御意見があると思いますし、また、14日の政府の見解を見ていきたいなと思っています。ただ、間違いなく功を奏してきたとは思っていますので、ぜひここを保ち続けたいので、引き続きの御協力をお願いしたいと思っています。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【記者】 よろしくをお願いします。政府が、安倍総理が第2次補正予算なんていうことも表明したりしていますけれども、第2次補正予算を組むという場合には、どういふことに期待するかというのがもしあれば。

【市長】 やはり自治体ではできないような大型な経済対策が望まれると思っています。家賃補償という話も出てきておりますし、こういったところは、特に小規模の事業者の皆さんは期待する声が高いと認識していますし、医療分野のところというのは、第2波に備えてというのはあるのかもしれませんが、本当に経済をどうやって下支えするかといったところに期待をしたいと思っています。

【記者】 その議論の中では、恐らく臨時交付金の話も出てくるんじゃないかと思うんですけども、そのあたりについてはどうでしょうか。

【市長】 やはり臨時交付金、今回の1兆円のもので本市に内定が来ているのが20億ということで、改めていろいろ分析を財政局のメンバーにもしてもらいましたけれども、財政力指数というのが相当かかっているということなので、そのあたりはよく見ていただきたいというのは、本市のみならず、政令指定都市、大都市のところは共通の認識だと思いますので、そのあたりをしっかりと国に伝えていかなくちやいけないなと思っています。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。御質問、よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355